

会員委員会 活動報告

株式会社日積サーベイ 代表取締役
BSIJ 理事・会員委員長
生島 宣幸



現在の積算協会をとりまく環境

以下、各種報道などから得た私見ですが、最初に我々をとりまく環境について考えてみました。現在のトレンドは、働き方改革・女性の活用・グローバル化などがよく言われております。併せて、我々を取り巻く環境では、インバウンドの良い影響のある地域や東京を中心とした地域では、ここしばらくは建設ラッシュが続くと予想されています。しかしながら、今後の(or現在の)趨勢は建物のスクラップ&ビルトのフローの時代は終わり、長寿命化なども含めたストックの時代に変化しております。

特に少子高齢化や人口減少の影響は、地方自治体の建設行政にも色濃く表れてきています。併せて税収の減少と社会保障費の増加もあり、公共住宅の高齢者対応やバリアフリー化改修、小中学校などの廃止や統合などが急務となり、公共建築物の総合管理計画の観点から今後の新たな建設計画は、明らかに減少していく時代になってきました。我々、積算協会もこれらの流れとは無縁ではお

られません。協会の運営基盤を支え安定的な協会活動ができる会勢を維持するには、本部と支部が密接に協力しながら、現会員の満足度(CS)を高め、新たな会員の増加と若手や女子会員の増強策などを切れ目なく効率的に実施することが極めて重要になってきております。

会員数などの推移

今後の活動方針を考える参考として、会員数の変遷などこれまでの経過を確認してみます(表1)。

1975年の創立時に603名で発足し、1985年～1990年頃には5,000名近い会員数を擁した時期がありました。その後、バブルの崩壊とともに減少の一途をたどりますが、会費の半減や様々な方策により、2010年以降は徐々にではありますが、増加傾向が出てまいりました。今年の春頃には、4,000名を一時超えておりましたが、その後、4,000名の前後を推移しております。

過去の会員数の変動要因を考えた場合、やはり社会の景気動向が最も影響していることは否定で

表1 協会創立以来43年間の会員数の推移

年度	個人正会員	増減数 前年度対比	法人会員	特別会員	第1種 賛助会員	第2種 賛助会員	合計
1 1975 昭和50年	603	0					603
5 1979 昭和54年	2,255	920	119	26	21	1,863	4,284
10 1984 昭和59年	3,060	▲ 118	118	27	27	1,012	4,244
11 1985 昭和60年	3,628	568	128	28	25	988	4,797
12 1986 昭和61年	3,676	48	135	27	25	947	4,810
13 1987 昭和62年	3,737	61	137	25	25	895	4,819
14 1988 昭和63年	3,543	▲ 194	137	26	25	810	4,541
15 1989 平成元年	3,515	▲ 28	138	28	24	765	4,470
16 1990 平成2年	3,556	41	138	27	23	612	4,356
17 1991 平成3年	3,906	350	140	25	25	621	4,717
18 1992 平成4年	4,077	171	144	29	22	569	4,841
19 1993 平成5年	3,859	▲ 218	145	30	22	528	4,584
20 1994 平成6年	3,853	▲ 6	147	30	21	437	4,488
25 1999 平成11年	3,608	▲ 155	158	41	161	268	4,236
30 2004 平成16年	2,260	▲ 182	90	41	105	173	2,669
35 2009 平成21年	2,348	50	85	52	70	111	2,666
39 2013 平成25年	3,151	37	-	65	87	79	3,382
40 2014 平成26年	3,462	311	-	63	96	74	3,695
41 2015 平成27年	3,558	96	-	72	107	67	3,804
42 2016 平成28年	3,605	47	-	66	132	68	3,871
43 2017 平成29年	3,735	130	-	69	155	61	4,020

表2 入会キャンペーン

キャンペーン年度	実施時期	期間中入会者数	2014年度:100
2014年度	8月～12月	32	100
2015年度	9月～10月	33	103
2016年度	3月～4月	100	313
2017年度	3月～4月	71	222
2018年度	3月～4月	132	413

●2018年度

【年代】	人数	割合
20代	52	39.4%
30代	23	17.4%
40代	30	22.7%
50代	20	15.2%
60代	5	3.8%
70代	2	1.5%
合計	132	100%

【性別】	人数	割合
男性	93	70.5%
女性	39	29.5%
合計	132	100%

きませんが、会費の半減や各種の方策により一定程度効果があったことと、先輩諸氏のご苦勞と併せて各支部のご協力の成果だと考えております。最近では、20代、30代の若手会員獲得のための「フレッシュャーズ・キャンペーン」、積算士合格者と未入会積算士を対象にした「個人正会員入会キャンペーン」、学生会員の積算士受験費用の割引など、様々な方策を講じております。特に、若手会員獲得のための「フレッシュャーズ・キャンペーン」では、表2にありますように、まだまだ少数ではありますが、徐々に効果が表れ始めています。

これらはいずれも、言わば「ディスカウント・キャンペーン」の一環ですので、あまり過度に行うことはできません。また、すぐにマンネリ化する傾向にあるのも事実であります。「目先を変える」というのは、例えば悪いかもしれませんが、やはりタイムリーにインパクトのある方策をとっていくことで効果がでてくると考えております。

しかしながら、この様な一過性のキャンペーンは、短期的には良くても、やはり長期的には会員の皆様がメリットを感じられるような、各種方策

を本部と支部が密接に連携して行っていくことが最も重要であります。

会員サービスとして一例をあげれば、各種書籍の割引特典や積算技術の向上に資する講習会の他にも、身近な話題を取り上げた講習会なども、本部・支部それぞれで開催されております。会員の皆様には、この機会に是非ご要望などをお聞かせいただくと幸いです。ご意見があれば、何なりと協会本部までご連絡ください。

会員委員会の活動計画

今年度の会員委員会の活動計画は、大きくは以下になります。

- (1) 会員メリットの向上と入会キャンペーンによる会員増強
- (2) 学生会員増強策の検討・実施
- (3) 賛助会員へのサービス向上による入会促進
- (4) 女性・若者および新たな職域への入会促進策の検討・実施

以上となりますが、積女ASSALとの連携やペリカン活動も活用しつつ、大学などへの出前講座も継続して行っていきたいと考えております。また、他の委員会や本部・支部とも密接に連携をとりながら有効な方策を検討し実施していきます。

会員の皆様には、BIMの進展や多様な発注方式の導入など、日々環境が変化していく中で、ご苦勞が絶えないと思いますが、今後とも協会活動にご理解とご尽力を賜りますようお願いいたします。

最後になりますが、各支部のご担当役員の皆様や本部・支部のスタッフの皆様には、日頃の本・支部運営以外にも、会費未納者への督促など会員委員会に関することで、大変なご苦勞と気苦勞をお掛けしていますことに心苦しい気持ちで一杯あります。この誌面をおかりし、心から感謝の意を表するとともに、今後も会員委員会活動を含む協会活動になお一層のご協力をお願いいたします。ありがとうございました。